

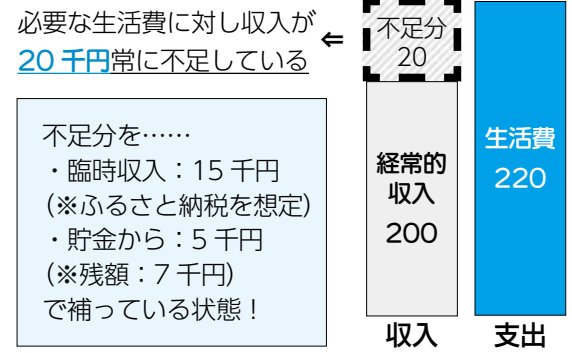
【市からの補助金について】

令和8年度当初予算では、市本体から病院事業に対して14億8千万円の補助金を支出する予定です。資金不足額の拡大を防ぎながらおかつ病院事業体制を現状維持すると仮定した場合、市の一般会計から必要となる支援は、毎年約20億円と試算しています（現状よりさらに5億2千万円増）。これは1年間の土木費予算（道路や橋の建設、維持管理など）に相当する規模です。

しかし、市財政では財政調整基金（＝市の貯金）やふるさと納税に頼った運営が常態化しており、これらを除くとたちまち多額の財源不足に陥ってしまう状況にあります。そのため、病院に対するこれ以上の支援は限界に近い状態です。

市財政の現状を1か月の家計に例えると

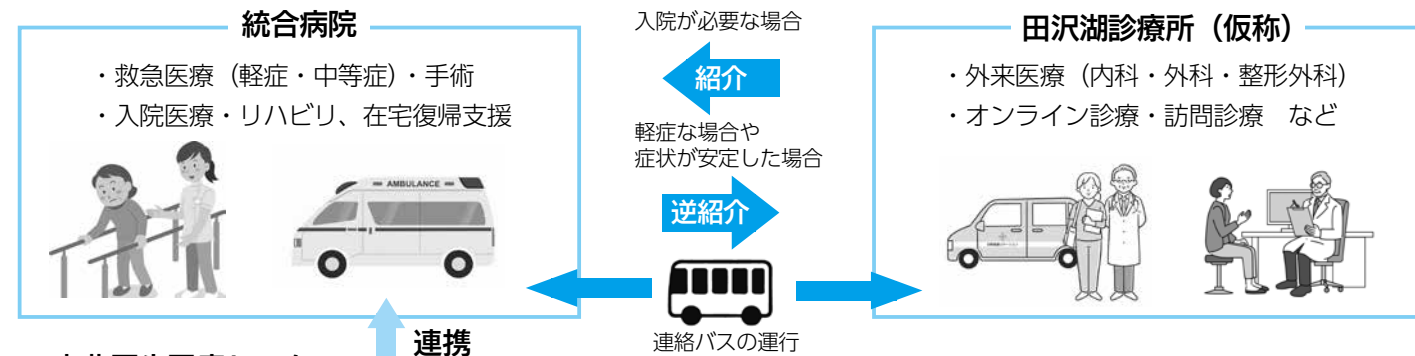
（※令和8年度当初予算ベースで）



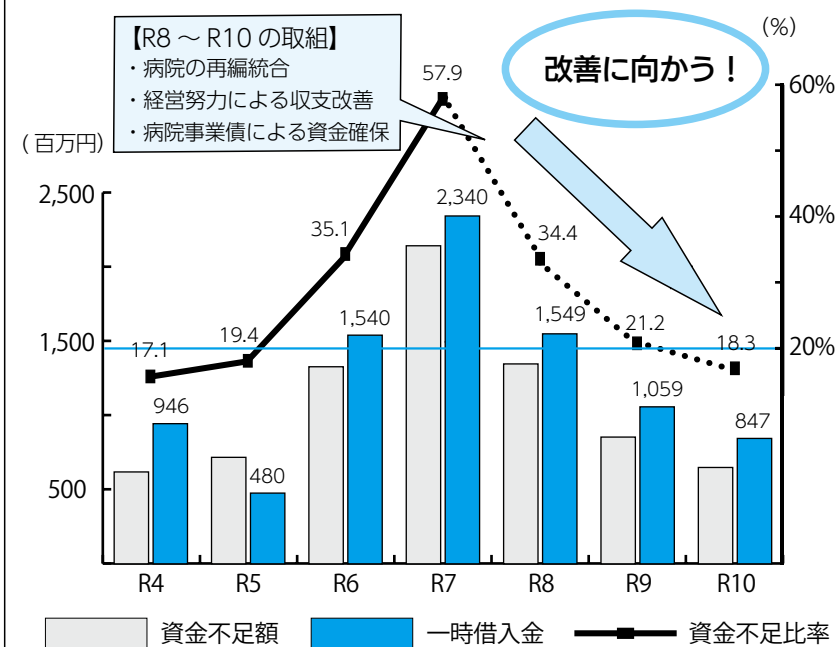
【計画に基づく主な取り組み】

●病院の再編統合

持続可能な医療提供体制の実現に向けて、田沢湖病院・角館総合病院の両病院における入院機能の集約や診療機能の見直しを実施します。田沢湖病院は令和10年度から診療所化し、身近な病気やケガへの対応を中心とする機能に、統合病院は大曲厚生医療センターとの連携を強化しつつ、今後の人口動態を踏まえ高齢者救急・地域急性期機能にそれぞれ移行する計画とされています。



計画が順調に進めば…



●角館総合病院の経営改善

大曲厚生医療センターおよび周辺の医療・介護施設との連携や病院スタッフの接遇向上による患者増を図りつつ、積極的な診療報酬加算の算定増による収益増に努め、他方、業務効率化などを通じた人員の適正配置および退職者の不補充などによる人件費の縮減、不採算診療科の見直しなどによるコスト削減を行います。

●病院事業債の活用

早期に資金不足比率を改善させるため、病院事業債を活用し、一時借入金（短期借入）を長期借入への借り換えを行います。

仙北市病院事業経営健全化計画に関する第1回住民説明会を開催しました

仙北市病院事業は、令和6年度決算において事業規模に対する資金不足額の比率（資金不足比率）が、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」第23条第1項に規定する経営健全化基準（20%）を大きく上回る35.1%となり、「経営健全化団体」となりました。このためこの法律の規定に基づき、「仙北市病院事業経営健全化計画」を令和8年3月に策定しました。

この計画の概要を説明し、また住民の皆さまよりご意見・ご質問を伺うため、第1回目の住民説明会を、市内5か所において計7回開催しました。説明の概要は次のとおりです。

経営健全化計画書



説明会資料

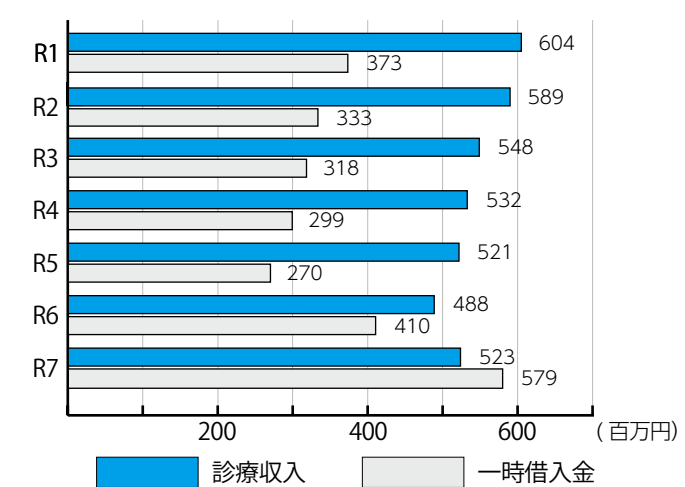


【病院事業の資金不足比率の推移と今後の予測】

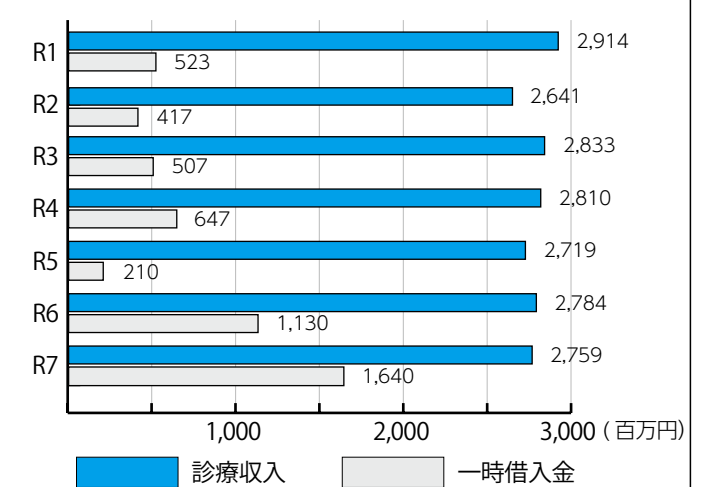
病院事業を取り巻く状況は大変厳しく、令和7年度は両病院合わせて8.4億円の赤字（田沢湖1.8億円、角館6.6億円）となりました。このままの状態が続くと、この先も資金不足比率が悪化し続けることが予測されます。特に資金不足額の大半を占める一時借入金（※）については深刻

な状況で、両病院とも医業収益（＝売上）が落ち込んできているのに対して一時借入金は右肩上がりに増えています。この残高が医業収益に匹敵する額となれば、金融機関からの融資が受けられず事業ストップとなる可能性があります。

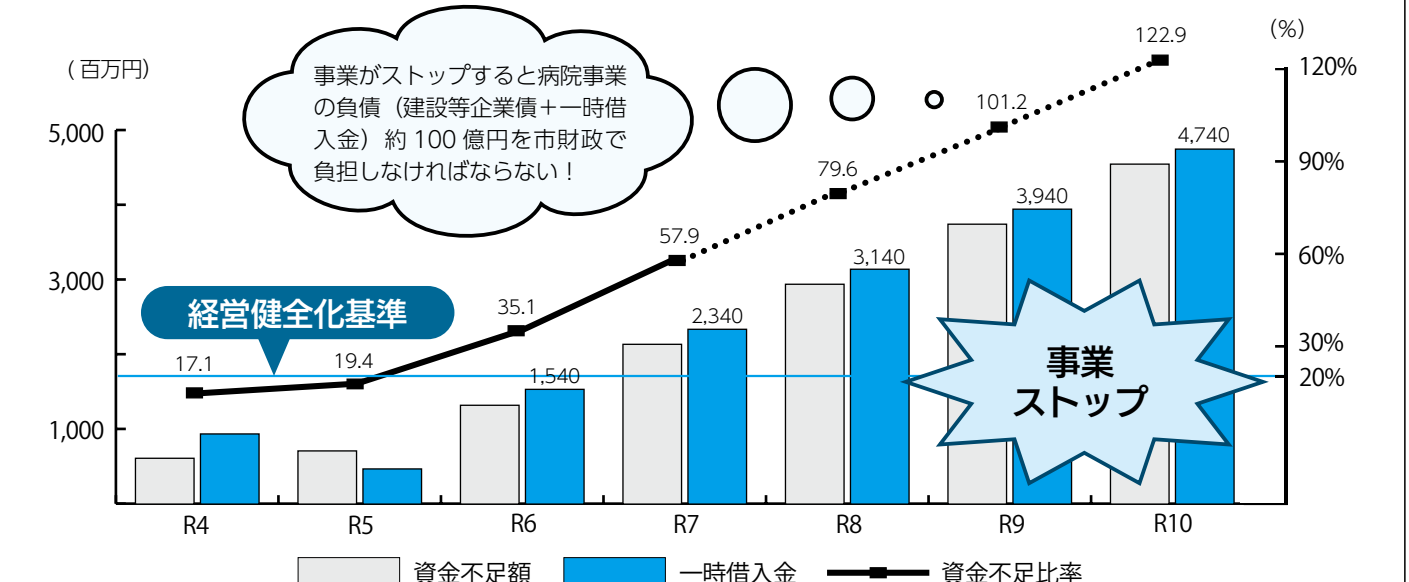
診療収入と一時借入金の推移（田沢湖）



診療収入と一時借入金の推移（角館）



このままの状態が続くと…



（※）一時借入金 … 一時的な収支の不均衡により生じる現金不足を補うための借入金。借入後、1年以内の返済を要する。

9	田沢湖病院の障がい者施設等一般病棟という施設を無くすのはもったいないと感じる。せめて角館に移設するなどはできないのか。	障がい者病棟については、本来は人工呼吸器の装着が常時必要となるなど重度の障がい者を想定した制度設計がされていますが、現状の田沢湖病院の患者層では重度障がい者は極めて少なく、看護必要度の低い患者様がほとんどです。さらに近年になって国の制度変更もあり、当該病棟へ入院できる患者要件が厳しくなってきたということもあります。 これらのことから、現時点では障がい者病棟を角館にそのまま移設させるということはありません。
医療提供体制、医師確保対策などについて		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
10	救急医療を第一として、やむを得ない場合を除き角館総合病院で必ず救急患者を受けるということにし、また田沢湖診療所でも日中は救急を受ける体制であることが望ましいと思う。	救急については、軽症および中等症の患者については絶対に断らないという方針で進めていくことを病院内でも確認しています。 また田沢湖病院が診療所化された場合においても日中に限り一次救急を受ける体制確保ができるよう努めます。
11	常勤の医師を増やしていくということも収益を上げていくには必要なことだと思う。良い医師を確保できるよう、取組を強化してほしい。	医師確保の問題については県全体でどれだけの専門医がいるのかという面も考慮する必要があります。現行の制度上、秋田県に残る医師の数は年々減少しています。そのため、すぐに確保できるわけではないというのが実情です。 ただし、何もしないというわけではなく、秋田大学との連携を強化するなど今後もさまざまな対策を講じていきます。
12	予約を取っているにもかかわらず、診察までの時間が長すぎる。また、待合スペースも非常に混雑し座るところもないことがよくある。何とかならないのか。これでは患者は増えていかない。	待ち時間については、医師や診療科によって違うということもあれば、採血やさまざまな検査が必要になる場合もあり、一概に同じようにするというのは非常に難しいところ です。ただし、業務の流れを確認しながら、要改善箇所があればその都度変更するなど効率化を図っていきます。 待合室の混雑についても、例えば診察待ちの方と会計待ちの方とが混在しているということもあるものと考え、会計処理方式を各ブロックでの作業から支払窓口へ一本化するなど、対策を講じる予定です。 外来の状況について、日々見回りを行いながら問題点の洗い出しと改善に努めますので、ご理解願います。
13	田沢湖病院が診療所化したあと、空きとなる2階の病棟スペースについて、現時点で何か利活用することは検討しているか。	田沢湖病院の入院機能休止後の病棟スペース活用については課題としていますが、現段階ではこれから検討を進めていくこととしています。
職員の接遇対応、意識改革について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
14	以前体調が悪くなって角館総合病院を受診しようとしたとき、診察時間がわずかにすぎてしまっただけで時間外だからと断られた。他にも高齢者の方がそのような対応を受けた事例を耳にしている。もう少し患者に寄り添った対応はできないのか。	病院スタッフの対応に関するご批判は多くいただいています。このことについては病院内でも共有し、並行して行っている職員説明会でも直接職員に伝えていきます。これまで同様の事例があったときも、現場のみで完結してしまい、上まで報告されていなかったということもあるかと思っています。事例の共有を徹底していくとともに、研修なども実施しながら、接遇改善に努めていきます。
15	どんなに良い計画を立てたとしても、それを実行していく職員の意識が変わらなければいけないということを踏まえ、取り組んでほしい。	ご指摘のとおり職員の意識改革が肝心です。この現状に危機感をもって、「これまでとは違う」という意識を醸成し、取り組んでいるところです。

再編統合後のより具体的な姿、今後の地域医療体制などについては、今年度秋頃（10月～11月）に開催を予定している第2回住民説明会で説明しますので、ぜひご参加ください。

●問合せ
仙北市病院事業 医療局 経営戦略室
TEL：0187-54-2116
Mail：iryoukanri@city.semboku.akita.jp



【皆さまからのご意見・ご質問とそれに対する回答・見解（要旨）】

延べ 82 人の方にご参加いただきました。以下では説明会で行われた質疑応答について要約したものを一部掲載します。

経営健全化計画の進め方、将来ビジョンについて		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
1	今後この経営健全化計画をどのような流れで進めていくのか教えてほしい。	①病院の再編統合、②角館総合病院の経営改善、③病院事業債の活用の3点を中心として進めていきます。これにより、令和 10 年度末までに資金不足比率の基準値未満の達成を目指します。
2	再編統合後の患者数をどのようにシミュレーションしているか。それを踏まえてどのようなビジョンを描いているか。	2030 年（令和 12 年）以降は 85 歳以上人口の割合がさらに増えていく見込みです。国や県でも医療・介護の連携を重視した構想の検討を進めていること、また、患者の症例も高齢者特有のものが増えていくことを踏まえ、仙北市でも医療圏全体での役割分担を意識しつつ、高齢者救急・地域急性期への機能転換・強化が必要となるものと考えています。
財政・経営状況の現状及びこれまでの経緯について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
3	両病院の一時借入金残高を人口で割ると、市民一人当たり 9 万円以上の負債とすることで、大変な危機的状況であると実感する。 ただ、このような状態を改善できなかった経緯を踏まえれば、これから本当に改革できるのかという懸念もある。	こうなった要因としては、両病院とも体力以上の建物を建てたことによるコスト増や、新病院開院後に一部常勤医師の退職などにより収益悪化した、といったことなどが挙げられます。 経営改善についてはこれまでもさまざま対策を講じてきてはいますが、抜本的な改善には至っていません。 本質的な部分へ踏み込んだ改革をしていかなければなりません。この仙北市に病院を一つでも残して地域医療を守るためには、やはり病院の再編統合は避けて通れないものと考えています。もちろんそれだけでなく、角館総合病院の経営改善も同時に進めていかないことには、早期の健全化は不可能です。 病院事業における約 8 億円の赤字を改善していくのは、大変困難な課題であることは間違いありませんが、これを実現できなければ、両病院が共倒れしてしまう可能性が極めて高くなります。この仙北市から病院が無くなるという事態を防ぎ、地域医療を守るためにも、不退転の決意で改革を推進していきます。
4	令和 5 年度から令和 6 年度にかけて急激に収支が悪化しているが、この要因は何か。	大きな要因として人件費の増大があります。令和 6 年度より大幅な賃上げや制度改正があったことによるものです。その他には、物価高騰の影響により、診療材料費の価格が上昇してきているという面もあります。 また、市の財政状況も悪化していることを踏まえ、一般会計からの補助金額について見直しを行ったという側面もあります。
5	病院の体制を現状維持する前提で資金不足の拡大を防ぐには、市からの支援が毎年 20 億円必要と試算されているが、このうち地方交付税はいくらぐらい措置されるか。	地方交付税による措置額は、繰出金の総額に関わらず毎年 8 億円程度で、これが現体制では上限いっぱい金額です。 差し引き後の残額はすべて一般財源で賄う必要がありますので、繰出金の総額が増えれば増えるほど、市の負担が大きくなっていくこととなります。
6	夕張市の事例を調べると、市民負担の増大や行政サービスの低下など、本当に厳しいことが実施されたようである。こういった事態になることだけは何とか避けてほしい。	この病院事業の経営改革については、市政において最大の課題であると位置づけています。仙北市が長く存続していくためにも、健全化を達成しなければなりません。 次の世代に大きな負担を残さず、子や孫の世代までこの仙北市をふるさとして暮らしていけるよう、全力で取り組んでいくことをお約束します。
健全化に向けた取り組みに伴う懸念について		
No.	ご意見・ご質問	市当局の回答・見解
7	経営改善のために医療体制を縮小していくということはわかるが、それによって頼りがいの無い病院になってしまうのではという不安がある。	今回の経営健全化計画の実施により経営の安定化の目途がつき、生産性向上のための設備投資へ資金を回せることができるようになれば、患者さまにとってもより良い環境をつくっていけるものと考えています。
8	田沢湖地域には開業医も少なく、現在田沢湖病院にある皮膚科や耳鼻科といったものが無くなるのは困る。高齢になれば遠くの病院に行くのも大変だ。	交通弱者の方向けに統合病院までの連絡バスの運行や、オンライン診療による専門医療へのアクセス確保について、検討していきます。